

◎研究発表

直進しない車—カズオ・イシグロの『充たされざる者』における移動—

高橋一馬

カズオ・イシグロ四作目の長編小説『充たされざる者』(*The Unconsoled*)の物語は、イシグロ本人も「夢の世界(dream world)」と評する、カフカ的な世界において展開される。語り手であるライダー(Ryder)は、ヨーロッパのとある町で開かれる「木曜の夕べ」というイベントに、高名なピアニストとして招待されている。初めて訪れたはずのこの町で、彼は自分の過去を知る人物や旧友と出会い、幼いころの記憶を刺激され、葛藤することになる。さらに、自分の妻と息子であるかのような母子とも出会い、密接にかかわっていくが、二人が本当にライダーの妻子だということは、最後まで明言されない。

物語の冒頭、ライダーの名を冠された語り手は、空港からタクシーに乗ってこの町を訪れる。その後も作品を通して彼はエレベーター、トラム、バス、そして自動車といった、様々な乗り物を乗り継いで町中を移動していく。

本発表では、様々な移動手段の中でも特に自動車に着目する。なぜなら、ライダー自らがハンドルを握る場面は作中二度あるが、そのいずれにおいても同乗者や車の持ち主から、それが「直進しない」ことを告げられるからである。なぜ持ち主も車種も違う二台の車が、「直進しない」という同じ特性を持つのか。そして、それは何を意味するのか。作中におけるライダーの移動手段に焦点を当てつつ、「直進しない」車が果たす役割について考察する。

◎ワークショップ

ハリエット・タブマンの「信仰」の声を聴く—聖書の響きを、特に初期伝記から

浅野 献一

ハリエット・タブマン(Harriet Tubman, 1822-1913)は、その困難な時代に黒人奴隸の多くを地下鉄道運動によって救出し、旧約聖書の最も重要な一人である解放者「モーセ」の名前によって呼ばれている。

アフリカン・アメリカンの学びをしていく上で、必ずといっていいほど言及されるタブマンの「信仰」とは、一体どういうものであったのか。それは神学的にはどの部分に位置づけられ、具体的にどの聖書箇所との関連を持っているのか。

それらのことについて特に、サラ・ブラッドフォード(Sarah H. Bradford)が記した初期の伝記、また遺されているタブマンの言葉から炙り出していきたいと考えている。その事のために、他の最近のタブマン伝記も参考にしていく。

大きくは、アメリカの信仰大覚醒(1~3次)なども踏まえながら、「タブマンの信仰」の先行研究や黒人神学(Black Theology)も含めて考察していくこととなる予定である。

多様な出来事、空間、属性を乗り越え、また往来し、束縛を打ち破り、自由と希望を多くの人々に指し示したタブマンの「信仰」の源泉に辿りゆくことを望んでいる。